

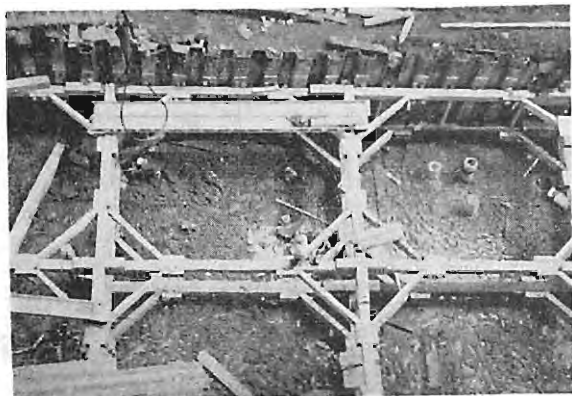
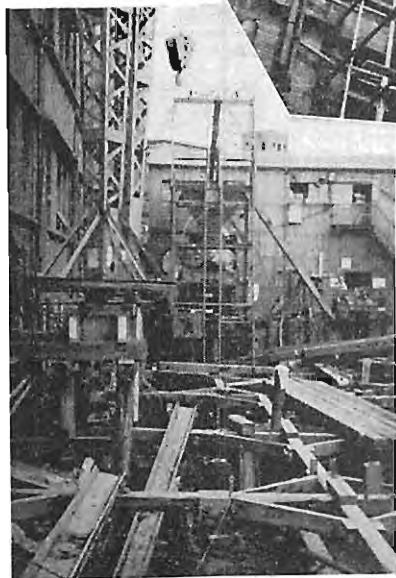
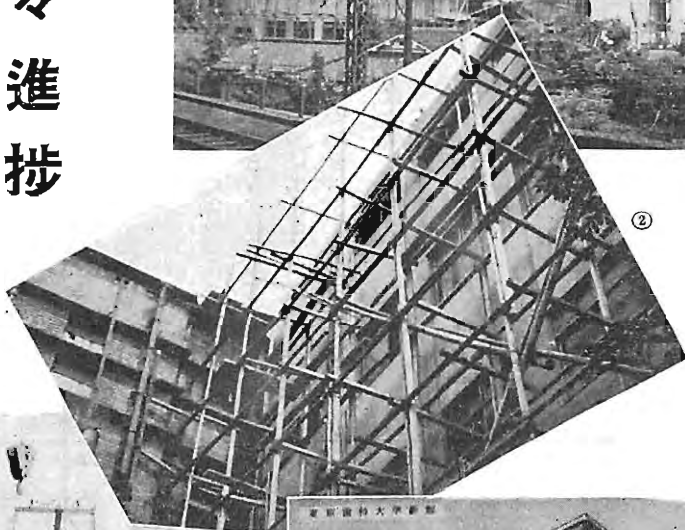
東京歯科大学同窓会会報

東京 三崎町 千代田区 神田七
行 所
東京歯科大学同窓会
編集 関根 永滋
発行人
電話九段(33)8446(代)

新築工事

着々進捗

取壊された旧館ならびに解剖室跡に堂々たる新建築がほぼ完成に近く、また、本館の三階の、外科手術室、病室、四階の補綴診察室の一部等も、改造に着手した。新館の工事も順調に進んでいる。



写真説明

- ① 水道橋駅ホームよりみた、新築された基礎別館と解剖別館
- ② 左側本館右側完成近かい基礎別館。
- ③ 新館の完成予想図、右側は現在の建物
- ④ 新館の建築基礎工事現場。
- ⑤ 本館の屋上よりみた新館建築の基礎工事現場。
(七月二十四日撮影)

溝上教授、松宮教授、田熊助教授

歡送会御案内

前号でお知らせ致しました通り、溝上喜久男教授は、欧米各国の齒科教育、施設などの視察に、松宮誠一教授は第十二回國際齒科医学會議に日本代表として欧州へ、また、田熊庄三郎助教授は米國國立衛生研究所の招聘で、それ／＼外遊されることに決定致しました。ついで、三君の行を壮にするため左記により母校ならびに同窓会共同主催で歡送会を開催致します。同窓各位の御出席を切にお願い申し上げます。本広告を以つて御通知に代えます。

日 時 八月二十四日(土) 午後 五時

会 場 茗溪会館(文京区大塚町都電教育大学前、地下鉄茗

荷谷駅下車)

会 費 壹千円

なお、準備の都合上御出席の方は必ず、八月十八日までに、同窓会本部まで御一報下さるよう御願ひ致します。

昭和三十三年八月一日

東京歯科大学学長 福島 秀 策

東京歯科大学

同窓会 会頭 榎 本 美 彦

同窓各位殿

学位受領者紹介

栗山武雄君



栗山君は、昭和十四年、母校を卒業後、直ちに郷里、札幌で開業に従事し、

爾來、盛業を續けて、今日に至つてゐる。その間、常に向學の心に燃え忙がしい診療の寸暇をさいて、研究にいそんでこられたが、去る昭和廿八年九月、敢然、意を決して、北海道大学第一病理学教室に専攻生として入室し、武田勝男教授の下で、鑑意、研究に精進した結果、その勞が美事に実を結び、去る四月十八日同大学教授会において、学位請求論文が、万場一致で通過した。主査は武田教授、副査は、安田、安保岡教授であり学位論文の研究題目は「各系ラット腹水腫瘍による感受系、非感受系ラットの抗移植性(活動)免疫に關する実験的研究」である。同君が、人格円満、豪放の中にも細心で、敬親、敬師の心に篤く、且つ愛情豊かな、典型的教養人で、家庭にあつては、よき夫でありまたよき父であることは、有名で、さらに外に向つては、模範的な齒科医人であり、友情に厚く、母校愛に燃える、チャキノ／＼の水道橋出身者であることは周知の事実である。今後、さらに一層、各方面への發展を祈念して止まない。(関根永澄記)

矢ヶ崎康君



ヤガサキヤスシ君は、大正九年、長野県は伊那の有力な実業家の二男として

生れ、昭和十七年の母校卒業生。直ちに入營、陸軍中尉として南支に転戦せられたが、二十二年復員し松本市東郷地で開業された。二十五年以來長野県東郷町の研究で私の教室に關係せられ、その後一転して学位論文の研究に精進せられた。即ちその道の最高權威、慈大衛生学・矢崎芳夫教授すらも困難とされた、螢光顕微鏡下に細菌縷毛を捕える事に成功せられ、その功績によりさる一月十四日の慈大教授会では、同教授主査のもと論文通過し、越えて三月二十九日付学位記が授与された。新博士の家庭は、幸子夫人との間に二男あり趣味はスケートと野球。敬父に早く死別されたが、実兄は現に県會議員として敏腕をふるつておられる由謹祝。(米沢和一記)

天野 惠君



アマノメグミ

君はこの八月で満三十二才の働き盛り。鹿兒島市で教師の家の生れである。昭和二十五年母校卒業

し、その翌年、母校昭和十六年卒業の実兄博徳博士が日本齒進出の後を受けて、その小田原市幸町の診療所を、母校一年後輩の觀望君とともに繼承された。二十七年春日大齒学部生理学教室に入塾し林謙教授直授指導のもとに、学位論文に精進せられた。三十二年一月二十八日の慶大医学部教授会では、同教授主査のもと論文通過し、越えて三月二十九日付ある醫學博士の学位記が授与せられた。三十年十二月、論文提出と同時に自身の氣運から、年の瀬も迫つてふらりと渡米せられ、前掲大学加州大学へ留学せられ、三十一年中はみづちり齒科の臨床を勉勵せられた事は本紙上で度々紹介せられた通りである。本年に入つて歐州経由で四月三日慈大に帰国せられた。前記御弟も同時に日大で学位論文を完了せられると言つた、兄弟三人博士が近く實現の筈で、交辭で御會費が本年八月に渡米留学せられる由謹祝。(米沢和一記)

小見 勇君



オミイサム君はこの九月で満三十二才の働き盛り。新潟県五泉市で大正十年

母校卒業見歳氏の二男として生れ、昭和二十二年の母校卒業。直ちに口腔外科教室研究生となり、翌年夏、日本鋼管病院齒科に転じ、二十六年秋川崎市新城一二で開業され盛業中であつたが、その後母校生理学教室

へ私の紹介で入室し、伊藤教授御指導のもと学位論文に精進された。さる四月二十二日の慶大医学部教授会にて、主査加藤教授のもと論文通過し、五月十六日付栄ある医学博士の学位記が授与される。新博士の親子兄弟四名とも母校卒業生で、末弟尚君は本学第三学年在学中。かつ義兄も母校出身と言う奇篤な東嶺一家である。謹祝。(米沢和一記)

主論文 自律神経線維の電気生理学的分析(心臓神経中 adrenergic fibre と cholinergic fibre の混在に就いて)、日本生理学会雑誌第十九巻七号(昭和三十一年)掲載予定。
松本幸一君



マツモトコウ
イチ君は大正十四年生れの生粋の江戸っ子で、大正六年卒業の同窓堅太郎氏の御長男である。昭和二十三年母校卒業と同時に矯正学教室の研究生となり翌年助手。二十六年辞職して、中央区日本橋茅場町一ノ八で開業せられた。その頃より私の教室に出入しておられたのであるが、その後一転して、北里研究所とかけ持ちで本格的に学位論文と取り組まれ、口腔から分離されたトリコスポロン属新アノイリナーゼ菌たる米沢・青木菌の同定に抜群の功績があつた。さる三月十四日の京都府立医大教授会では生化学・藤田秋治教授主査のもと論文通過し、越えて五月十六日付栄ある医学博士の学位記が授与された。新博士の家庭には

事熱心の半面、家族づれで釣りを楽しむやさしいお人柄でもある。謹祝。
(米沢和一記)
主論文 Trichosporon 属新アノイリナーゼ菌と Trichosporon cutaneum の比較研究(ビタミン第十二巻第四号昭和三十一年)
和田周志君



ワダシユウジ
君は私と同郷の富山県でこの八月で満三十才。終戦の年

同県高岡商業を卒業するや、直ちに母校に入学し、二十四年の卒業。叔父に当る金沢市の同窓和田直樹博士の診療所に四月勤務して、同年八月日本鋼管富山病院に転勤された。感ずるところあつて先輩福本博士の紹介で二十七年夏母校に復帰せられ、当時の山田生理學教室の研究生となり、一年を経て、助手に任ぜられた。見事論文を完成して三十年五月、三越本店前の天野博徳博士の診療所で開業の手引を受けその近くの中央区京橋一ノ九でオフィス開業せられ、目下文京区根津片町九の自宅から通つておられる。去る五月十三日の慶大医学部教授会にて加藤元一教授主査の下論文通過し、越えて七月二日付栄ある学位記が授与された。謹祝。(米沢和一記)
主論文 単一有髄神経線維に対するマロン酸ソーダとクエン酸環基質との効果に就いて(日本生理学会雑誌近刊掲載)

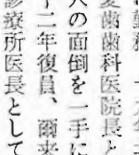
相原健男君



福島県の出身
昭和十六年三月母校卒業、直ちに郷里に帰り父君を援けて診療

に従事中。終戦を外地で迎え、二十二年復員、従前通り郷里にて診療に従事して居られたが、二十七年五月、向学の念に燃えて当病理学教室に入室、多大の犠牲を払つて臨床患者より研究資料を採集、懸命の努力が報いられ、昨三十一一年三月主論文が完成、慶応義塾大学医学部教授会に学位論文として提出中であつたが、岡田滿教授主査となられ慎重審査が進められていたが、十二月三日満場一致をもつて同教授会を通過、去る三月十一日付栄ある学位記が授与された。遠路通学された努力に対し心から敬服するとともにお祝いを申し上げるしだいである。君は母校に在学中から篤学の士で、現在も周辺の青年歯科医を懇諭して研究会を催し、歯科医の地位向上に努力して居られる由、今後とも益々研鑽初志貫徹に邁進されることを期待する。
(松宮誠一誌)
主論文 各種歯科鏡像体の歯髄に及ぼす影響に関する病理組織的研究、他参考論文八編。
島田宗武君

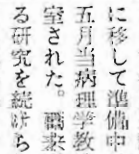
秋田県出身、昭和六年母校卒業、直ちに母校付属病院補綴学教室に副手として採用され、翌年助手に任命され、同



秋田県出身、昭和六年母校卒業、直ちに母校付属病院補綴学教室に副手として採用され、翌年助手に任命され、同

九年九月まで在職、以後白木屋歯科に勤務、十九年北京に派遣され同地愛歯歯科医院院長として同地方在留邦人の面倒を一手に引受けて活躍、二十二年復員、爾来東京麹町問屋保険診療所院長として活躍中、たまたま二十八年十月国際歯科診療所開設にあたり懇望されて大塚豊美所長のもとに副院長として就任、現在に至つている。
当病理学教室には二十七年四月入室以来孜孜として研究に従事されてきたが、三十一一年七月研究が完成、同年九月慶応義塾大学医学部に学位論文として提出。同部外科部主任教授岡田信勝博士主査のもとに審査がつけられた結果本年一月十四日同教授会を満場一致で通過、三月二十九日日出度く栄ある学位記を受領された。
君は資性温厚篤実、師表としての人格を具え、多数の医員を統括して国際歯科本来の目標達成に充分なる期待をもつて、心からなる祝福と敬意を捧げる。(松宮誠一誌)
主論文 実験的顎骨顎炎の病理的ならびにレントゲンの観察。他参考論文八編。
吉井 久君

千葉県出身、昭和十五年三月母校卒業、直ちに付属病院口腔外科部に研究生として入室されたが、同年十二月



千葉県出身、昭和十五年三月母校卒業、直ちに付属病院口腔外科部に研究生として入室されたが、同年十二月

として入室されたが、同年十二月卒業、十八年応召解除、歯科診療に従事中。二十二年二月再び応召、同年八月終戦と同時に復員郷里に於て診療に従事されたが、向学の念抑えがたく、二十六年二月診療所を現在の杉並区に移して準備中であつたが二十八五月当病理学教室に専攻生として入室された。講義同僚を警して熱心なる研究を続けられていたが、その努力の成果が三十一一年五月完成、同年八月これを主論文として慶応義塾大学医学部に提出。岡田滿教授が主査となられ真摯な検討が続けられていたが本年二月四日の同教授会を目度く通過、越えて四月十七日榮ある学位記を受領せられた。
誠に同窓の至りで、心からお祝辞を呈するしだいである。
君の研究課題も、臨座(金冠)面であるためその資料の蒐集、検討に幾多の困難が伴つたものであるが、それを克服して本研究を完成された努力に対しても心から敬服申し上げる。(松宮誠一誌)
主論文 金属冠装着による歯牙および歯頸部附近組織の変化に関する病理組織的研究。他参考論文六編。本多宣章君



大分県出身、長野県立中学卒業、昭和十六年三月母校卒業、直ちに副手として保存部に勤務、翌十七年一月同助手に昇進、二十三年二月退職、聘されて神戸市の藤井歯科に勤務され現在に至つてゐる。二十七年より当病理学教室に専攻生として入室、日夜研究に勤めて居られたが、昨三十一一年主論文が完成、同年十月東京慈恵会医科大学教授会に学位論文として

提出。同大学病理学教室高木文一教授主査のもとに審査中であつたが、本年四月二十三日同教授会を満場一致で通過、去る六月三日目出度く学位記が授与された。衷心より祝福申し上げる。

現在藤井院長が同窓会兵庫県支部長として日夜会務に奔走できるのも君が副院長とし後顧の憂なからしめて居られるため、誠に同慶の至りに存ずるしだいである(松宮誠一誌)

主論文 種々なる歯科用円錐が実験的感染歯牙抜去創の治療経過に及ぼす効果の比較に関する病理組織的研究。他に参考論文九編。

館山淳一君



アイソトープの時代に、今なお明らかでない上顎神経の研究が、群大で発表され、領学の諸学者の礼讃の中に立つておられる白面の研究者が、母校卒業生であると聞いた時、どれほど肩味が広い思をしたか分らない。その研究が結実し、一年前の昭和三十一年九月北大教授会を通過した。(主査児玉教授)

君は同窓館山文次郎氏(小樽市)の長男として生い立ち、昭和二十三年卒業後、母校口腔外科学教室助手となつた。ついで郷里にもどり札幌医科大学科学教室で松野新博士に師事すると共に札幌医大解剖教室で渡辺教授の指導下に研究し、今日の榮を得た。

君は学生時代より明朗調達社交性に富み、人をそらさぬ物腰は、君をよく知る人の一致した見解である。又なかなかのスポーツマンで、在学中は特に毎校伝統の卓球選手としても名を挙げた。

君は現在岩見沢に居をかまえ、内助の功高き令夫人(北星ドレメ校長)との間に二男あると聞く、御多幸を祈つて止みません(上条雅彦、中久喜寄記)

主論文 犬の上顎歯牙に分布する神経の解剖学的研究。末高 武君



ある会合で、杉山教授が、歯科衛生士の話をした時、それでは私の家内をと

いつて歯科衛生士学校に入つた夫人が、抜群の成績で卒業と共に、よほど東歯にほれこんだのか御主人(昭和五年日大卒)が解剖教室に入つてこられた。休職にものをいわせ集めた数千の石膏模型をもとに、生体歯

銀の研究は、奥村名誉学長、佐々木熊大長長の指導下で完成、昭和三十一年十月熊大教授会で論文が通過した。おくれはせながらお祝い申し上げます。なお氏はかつてオリンピック選手としての履歴を持つスポーツマンであり、現在板橋区歯科医師会副会長、都歯科医師会理事を務めておられる。(上条雅彦記)

秋尾 栄君



英国紳士という言葉が、もつとも身についた姿が、母校解剖教室にみられる

ようになつて幾星霜。

日活国際ビル歯科院長の多忙な毎日に思いをはせる時、氏のファイトに頭が下つたのは、筆者、医局員のみではないだろう。氏は昭和四年、東歯卒業後助手を拝命、ついで郷里函館中央病院歯科医長を勤務、昭和十六年母校教授会の推薦により、満

州重工業東道会社副参事歯科医長、ついで華北交通北京病院歯科医長、北京大学講師とその半生を母校北辺発展の礎石として活躍した。すべてを失つて戻つた氏が、その残れる情熱をかきたて、奥村名誉教授、慈大新井教授指導のもとに完成した北支那人頭蓋骨の研究は、参考論文四編と共に、昭和三十一年十一月慈大教授会を通過した。こゝに遅ればせながらお祝を申し上げます。

家庭には、令夫人との間に二女あり、夫人は賢夫人と聞いている。御多幸を祈つてやみません。(上条雅彦記)

佐々木 久間五三男君

円満な人格という言葉は、氏のためにあるのではないかと思われほど、黙々ときびしい究学の道を歩んだ姿は今でも眩はなれません。氏は私叔した三崎教授の暖かい庇護のもとで奥村名誉教授佐々木熊大長長の指導下で完成した「永久歯発生の組織学的研究」は昭和三十三年二月熊大教授会を通過した。氏は昭和十六年母校卒業と共に副手として保存学教室に勤務、応召、復員後、都立駒込病



院について都立大塚病院に勤務、院長代理として勤務されておられる。氏の人柄に加えて、学位授与は、母校諸先輩の多い都立病院でさらに十分な活躍が期待されます。おくれはせながらお祝いを申し上げますと共に、御多幸を祈つてやみません。(上条雅彦記)

武久 滋君



この明朗な人に、両親が広島で一瞬にしてうばい去られた苦悩の面影をみつ

けることは出来なかつた。そしてこの人が「米日人、日本人歯牙の比較研究」という題目にとりくんで、日本人固有の陶歯製作の悲願にもえる岡田教授の懸案の一部を解決したこの論文が、昭和三十三年二月慶大教授会を通過した時、私は、青春のくずれ去つてゆく音に涙を禁じ得なかつた。

氏は昭和二十四年母校卒業後、外科教室に勤務、かたわら中村教授のこよない知遇の下で、慶大岡田教授の命をうけ、歯牙の研究にとりくんだ。ついで奥村名誉教授の指導下に解剖教室研究生として、正月、休暇のないう生活の中でこの論文を書きあげたのであり謹んでお祝い申し上げます。幸い君には、良師中村教授をはじめ、慶大木下理事、木下進学課程主事等良い指導者に恵まれておる。これ等の人々の指導下に、若き情熱を歯科医学の興隆にさげてください。(上条雅彦記)

氏に昭和二十四年母校卒業後、外科教室に勤務、かたわら中村教授のこよない知遇の下で、慶大岡田教授の命をうけ、歯牙の研究にとりくんだ。ついで奥村名誉教授の指導下に解剖教室研究生として、正月、休暇のないう生活の中でこの論文を書きあげたのであり謹んでお祝い申し上げます。幸い君には、良師中村教授をはじめ、慶大木下理事、木下進学課程主事等良い指導者に恵まれておる。これ等の人々の指導下に、若き情熱を歯科医学の興隆にさげてください。(上条雅彦記)

氏に昭和二十四年母校卒業後、外科教室に勤務、かたわら中村教授のこよない知遇の下で、慶大岡田教授の命をうけ、歯牙の研究にとりくんだ。ついで奥村名誉教授の指導下に解剖教室研究生として、正月、休暇のないう生活の中でこの論文を書きあげたのであり謹んでお祝い申し上げます。幸い君には、良師中村教授をはじめ、慶大木下理事、木下進学課程主事等良い指導者に恵まれておる。これ等の人々の指導下に、若き情熱を歯科医学の興隆にさげてください。(上条雅彦記)

18 回分割 ◆ イージー・ペインメント ◆ システム

分割払を利用すれば、月々僅かな費用で明るい清潔な設備が完成します。最寄りのモリタの店、または取扱店へ御用命下されば早速御説明に参上します。

東京・大阪・京都・小倉・和歌山
工場： 京都 伏見

森田 歯科 商店

支部通信

福島学長各地同窓会支部総会に出席

福島学長は、学長就任以来極めて多忙な毎日を送られているが、郷内はもとより地方支部の懇請により、三重、大阪、栃木、静岡、広島、北海道を歴訪された。未着の北海道を除き、各支部よりの報告をつぎに収録した。なお、同学長は四国四県の募金出張をおえて無事七月二十一日帰京された。

三重県支部

五月十日朝八時七分が「伊勢号」は東京からの長途の旅路を終えて颯爽と山田駅に到着した。出迎えの同窓一同特に車両に馳せ参すれば會ての吾々の恩師には東京歯科大学々長として悠揚せまらざる福島先生、貴公子の風貌を備えられた長尾教授お疲れの御様子もなく、駅頭に立たれた。直ちに駅前日出館に小憩す。その間角倉、勝田両先輩も御出になり久調を叙され学長先生には特に今日の為め威儀を正しモーニングに着替えられ、両先生角倉、勝田、森(宅)寺本、塚沢、辻村、山際等と小型バスにて両宮参拜に出発した。この日五月の空は雨催い、時に小雨は神域の輕塵を潤し伊勢路の風情又一入なるものあり。内宮に於いては特に支部から御願してあつた胡麻鶴禰宜の御出迎を受け、社務所にて記帳、神官の先導にて学長及び長尾教授内陣に参入して正式参拝の儀行わる。更に御饗殿に席を移し皇太神宮の大御前に学長参進され学長としての御決意を披露し大学院建設成就の祈願文を御朗読拝し、供奉の同窓



一同も肅然として、襟を正して声なし。角倉先生この感激をお得意の三十一文字にてのせて
力強ききわみなりけり
新しき吾が学長の正式参拝 家茂
式後神宮斎館応接間にて胡麻鶴禰宜

の御心尽しの茶菓の接待をうけ休憩の後神宮前にて記念撮影、二見に行くと。途中寺本氏よりのお知らせにて学長と大阪の中学時代御一緒だったと言ふ今永先生(日歯出身志摩にて開業)をバスに迎え訪々を加う。二見にては古川先生の御饗宴にて由緒正しい二見館にて昼食。この際は古川先生令息本年母校卒業の御心祝として清酒御寄贈あり一同深謝す。更に車を馳せ鳥羽に向う。この頃より雨滋く真珠島水族館見物の為近鉄終点より電車にて本日の御宿泊地橋原へ……湯の郷に漂い折柄の五月雨に階下の溪流岩を噴き青葉若葉の色濃く蒸散び交う。この湯に縁深き清少納言の古事等偲びつ、両先生及び本日よりの橋原館宿泊希望組との団樂にいつか初夏の夜は更け行く。明くれば十一日朝来五月雨しとどなれど恩師に見えんと参集するもの三十五名支部総会としては盛会である。会計庶務報告、又森(宅)角倉(總)両新医学博士に支部会員一同の衷心より喜びの印として記念品贈呈等滞りなく済み愈々福島学長の御講演である。スライドによる母校の近況、大学院建築微細にわたり御説明には全会員納得出来よくも茲まで行き届いた御手際は流石に吾が母校であると思ふ。会員皆感謝を深くした次第である。長尾教授の御専門の御講演は題して『社会保険に於ける抗生物質療法』の規程改正についてこれは去る二月母校同窓会に於ける御講演でその当時より吾々地方に居るものも重大関心を抱いて居たものではからずその当教授をお招きし

て三重県に於いて聴講出来るとは。御長講二時間にわたるも説く講師、聴く同窓一同一体となり静粛そのもので外に五月雨の音をきくのみ。四時三十分より全員温泉に浸り宿の浴衣に着替へて懇親会である。福島学長より新任御挨拶として多大の酒肴を拝領し飲む程にメートル愈々上り水道橋生活を語り母校の現況を聴き刻の結つを知らず同窓の母校校歌合唱母校方寸もつい忘れてしまつたのは誠に申訳は無き次第であるが、何しろその夜九時の大阪行き特急で学長御出発長尾先生は名古屋へ急行されると言う慌だしさも手伝つて居た事であつた。

上坂、松井(邦)、吉田(秀)、角倉(家)勝田(多)、森(宅)、角倉(鏡)、加藤(久)、辻村、小川、栗山、北川(修)古川(綱)、北川(大)、田中(正)稲森塚沢、寺本、清水、中西(寛)、北野山口(幸)、石川、中西(亨)、大川(好)勝田(邦)、松井(真)、勝田(清)、森(茂)、松崎、高森(俊)、加藤(正)、川崎、山際、以上。(支部長山際記す)

大阪支部

五月十三日(月)午後六時
所 道頓堀心斎橋ダウン
新学長福島秀策先生と新しく母校教授になられた渡辺梯先生、木下教授をお迎えして臨時総会を開催、出席者二十九名歓談に花をさかせて夜をふかした。

出席会員左の通り
松本績、岩鶴俊男、秋岡稔博、芳激傲、辻邦基、古座谷弘、小宮山昌

栃木県支部

去る五月十九日(日)宇都宮市旭町中村屋において三十一年度総会を開催、各校より福島秀策学長、渡辺富士夫助教を迎え会員二十四名参



集した。午前中の支部総会は定刻より四十分遅れて開会、支部長挨拶、庶務幹事から三十、三十一年度会務

報告、同じく会計報告が会計幹事よりなされて承認、三十二年度の事業計画に就ては次回総会を観光地で開催の要望があり幹事に一任された。次の役員改選では支部長幹事留任と決定、引続き協議事項(一)同窓会費徴収方法につき各支部毎に取組め協力方を幹事から懇望された。(二)支部会費交付金の件に就ては芳賀支部は年百円徴収しているで不要との意見も出たが三十二年度以後の会費に對し納入実績の二割を翌年度に交付することに決定した。以上で総会を終了中食をすました頃福島学長渡辺助教が御来会、挨拶が一しきり続き午後は先ず学長から奥村先生の御病氣について、詳細な御報告を承り、次いでスライドによつて学内近況並びに大学院建設工事の進捗振りを文字通り微に入り細に渉つて約一時間半繰々承り学内奉つて母校の隆盛を目ざして情熱を以てことに當ら

れている様子に、感銘した次第である。引続き渡辺助教が「充墳に關する臨床瑣談」と題してやはりスライドを用いてレジンのブラッシングメソッド、珪酸セメント・アマalgム充墳の注意事項、インレーワークスの取扱に關するキーポイント等真理のあるところに蘊蓄を傾けて捲し立てられ充墳学の現況を極めて有意義に承つた。

三時半より懇親会を開き先ず椎貝支部長が福島先生に對し同窓子弟の母校入学に際しては同窓会発展の爲にも特別な御配慮を賜り度い趣旨の型破りの挨拶をすれば学長また入試に關連する母校の一貫した厳然たる態度をウィットとユーモアたっぷりにふんわりと述べられ一同くすがつたりくすぐられたりといった表情で大笑い、流石に学長を迎えては所

謂お通夜式宴会の異名を返上して宴酣となる盛會さ、はては日光和楽踊りを本場の宮川君の太鼓の名調子よろしく踊り抜くあたり踊りの輪は次第に大きくなり上着に恵まれた学長の身振り手振りも浮れだした一同歡を尽し終りに校歌を高くらかに合唱学長音頭に依る母校の万才を以つて終了した。

出席者(順不同)

椎貝支部長、黒崎(博)、天沼(浦)、松島、神山(登)、岡田(治)、栗原、天沼(竜)、篠瀬康、岡田(一)、篠原(誠)、秋山(保)、秋山(正)、落合丹野、森下、幸田(栄)、宮川、大坪園田、相場、黒崎(弘)

(黒崎弘發記)

静岡縣支部

薫風新緑の六月一日二日に互り標記の總會を伊豆山温泉美晴館にて開催。

母校より榎本会頭、福島学長、松宮教授を迎えて出席者七十名に及ぶ盛況でありました。三先生御臨席の上開会の辞、副支部長森田福造君、支部長後援徳永寅蔵君、会務報告を幹事長淺井寿一君によつて行われ、本会々員大場明徳君並に板倉一民君が今年度の研鑽の効ありて学位を受領されたことに對して記念品を贈呈し祝意を表しました。次いで議事に移り会則の一部改正と削除の件を承認し、役員の選挙は五十嵐昭昭君の発議にて全員の賛成を得て、支部長副支部長、幹事長及幹事の再選となる。

講演に移り、母校及同窓会の近況を榎本会頭より、新学長、新理事長決定に到る経過について詳細なる御講演あり、名譽学長となられた奥村先生多年の御功績を深く感謝し御健

康回復を切に祈り新なる学長を迎えて意気上り新理事長と共に学校経営面の充実に大いに期待する事と存じます。

新学長福島教授は学長就任の御挨拶の後大学院の建設に就いて多数のスライドを用いて現況を詳細に報告されこの大事業の順調な経過を拜聴し、更に完成への協力を誓ひ合いました。

次に松宮教授は病理学の立場から見た感染根管治療の要訣と題してスライドを利用して一時間に亘る臨床



上の根本問題を明確なる御講演により裨益する所大なるものがありました。記念撮影の後休憩で浴槽に飛込み

は大破壊戸を通して眺める伊豆の海そして初島遠く御神火の大島は水平線の彼方にうす紫の姿をかすませて横切つております。此の絶景を眺めて世塵を洗い、三階百畳の大広間も三講師を主賓に七十名所収しと着座し渺々として紺青の相模湾を一望の下に眺めて豪華な懇親の宴は五十嵐幹事の司会で開かれまして。

土地美形十数名の酒間舞旋に飲む程に酔う程に愉快なる気分横溢しまだまだかつて経験せぬ融和せる心地渾然として湧き出、で聴し芸は云うも更なり、校歌の合唱遂には榎本会頭初め福島学長松宮教授をも舞台上に立たされ名吟名技の御披露あり、たれ云うともなく皆一斉に立ち上り円陣を作つて歌い踊ると云う境地に到り(この状況は小生の発筆では表現出来ませんが)欲を尽して散会しました。

此の現象は同窓会々頭新学長新理事長による母校の新発展への期待と喜びに溢れた結果かと想像され喜ばしく存じます。

翌六月二日は午前中松宮教授を中心として臨床座談会を開催終つて閉会の辞は副支部長、松田潔君により陳べられ終了しました。(徳永記)

出席者氏名(敬称略) 朝浪惣一、朝浪篤、安原英司、平田棟一、山下初彦、平岡光一、吉田弘松田潔、大畑憲太郎、大場明徳、武藤勉、小沢悦郎、鈴木秋雄、丸山実太郎、河村三省、河村孝義、木村幸人、河村秀正、手島崇、市川潔、林純一郎、竹山芳太郎、足立益雄、徳永寅蔵、佐塚孝一、森田福造、本目

保吉、河村忠篤、鈴木孫一、早川博板倉一民、佐藤肇事、大村武生、土屋勝雄、榎本允男、大杉精吉、五十嵐晃昭、本田和彦、栗田春海、佐藤俊一、榎本平蔵、三浦和雄、飯田豊年、浅井正昭、大藤幸雄、杉本幸、田川明知、外圭三、徳永富士雄、浅井幸一、外三千介、城内泰郎、新保政美、栗田稔、鈴木安夫、大内惣一郎、小川知二、岡村一夫、赤堀開吉、名波佐智夫、大沢一康、桐原正之、藤田彦平

広島縣支部

暫雨しい梅雨も漸やく晴れた七月十四日久方振りに開かれる同窓会広島県支部總會に御出席のため、福島学長、米沢教授一行は地元三宅、岸田、玉井、高岡等のお出迎へのうちに其の前日の十三日早朝、こ、中国路三原駅に降りた、れた。長い間異境での御苦勞の影は既になく温客満々、米沢教授、原助教、木本博士等同道で極めて御元氣である。この日は母校と因縁深い我国化鐵業界の雄、帝國人絹がお接待申上る事となり、先ず会社の城見寮にて朝食、御休憩の後自動車を連ねて工場に御案内、貴賓室にて上野工場長とお会いになり、工場現況の説明を熱心にきかれた。続いて工場見学へーパルプから人絹糸の出来上る巨大な我國産業の一面を御覧になつて興味深そうであつた。続いて工場病院を御案内。この間、広島より荒谷支部長も馳せ参じ、一行八名会社のランチーレイヨン丸一に便乗、美人女中のサービスのまにまに、名にしおう瀬

戸内の佳景を、久し振りの海の香を、心ゆくまで楽しめた。海上二時間、やがて鯛網で有名な天下の絶景、三原市柄の浦錦水別館に入られた。翌十四日は早朝に起きた学長は、午後同窓会までの間をおすきな魚釣りに二三のもの同乗して、朝もや



の中に漕ぎ出し、キス釣りを楽しまれ、三時間たらずの間にたちまち六十尾程をつられ、早速一行の昼食の食膳に上り話題を賑わした。

愈々二時半。相会するもの五十三名。盛会のうち開会。先ず荒谷支部長の挨拶。高木副支部長の会務報告ののち、学長の大学の近況報告が

ありスライドで詳細に説明せられ、母校の愈々発展して行く現況に同窓一同感慨をこめて聞き入った。続いて米沢教授の話題豊富な講演。郷土出身本新博士の研究業績報告。原助教授の臨床瑣談を面白く拝聴した。更に続いて本日正午東京より馳せ参じられた同窓会幹事鹿島俊雄博士の中央諸情勢の報告があり、更に一層の活躍を願わねばならない同博士のために期せずして後援会の結成の提案がなされ、満場の賛成を得て可決、直ちに発足する事となった。同博士の健闘を祈る次第である。引続いて記念撮影をなし、大広間の宴に移る。久方振りに相会した面々、思い出に、近況に尽きぬ歓談に夜の更けるのも忘れて盛宴は続いたのである。米沢教授鹿島幹事は同夜あさかぎ号にて帰京。福島学長は原助教授を帯同翌朝御元気で四国路へ向われた。(玉井記)

福井縣支部

昭和三十三年五月二十六日(日)福井県支部に於ては同日福井県歯科医師会の学術講演会に特別講演者として、母校の大井清教授、三崎仙郎教授を迎えたのを機に、三十二年支部総会を開催した。快晴の午前十時駅頭に学会講師の両教授を迎えてしばらくステーションホテルで休息、歯科医師会の幹部と共に会食後午後大井教授の抗生物質に関するお話、次で三崎教授のX線の撮影並びに撮影についての造詣ある説を伺つて後直ちに用意のロマンスカーで泉郷温泉へ向つた。この日三崎教授は

翌二十七日東京に於て抜けられぬ合がある由でどうしても帰京されることになり、残念乍ら同窓会及び宴席への御出席も得られなかつた。かくて大井先生は特別講演者、教授の肩書も洋服と共に脱いで芦原の一流旅館の浴槽に浸られた。この地は約一年前大火に遭ひ温泉旅館の大部を焼失し一時再起を危ぶまれたが、今は都市計画も成り石、セメント、木の香が鈍と鈍の音と共に復興調を奏して居るが、室内は整いやがて夜の帳が下れば外界の異風景は全く気にならない。

参集するもの大井先生と同期の熊倉支部長以下二十六名、朝来の学術講演会に一同いき、か疲れと空腹となつたので一浴後直ちに大広間に集り同窓会支部総会を開いたが、時間都合で支部長の挨拶、会計の報告に止めた。翌朝に譲つた。宴会は開会前より待機的美妓が酒間をとりもてば酒席は賑かとなり、盃は飛び交ひ余興は続出する。予定の時間が来ても益々旺なので延長を計り酒を追加し大に飲を尽す。一応広間の宴を閉じてからは、大井先生の室へ思い／＼に集り再び酒盛りが始まる。翌日は午前九時から広間で朝食後役員改選が行われ、次で母校近況報告があり、百枚のスライドによる実況説明を大井先生の弁士で伺えた。各年代の相違はあつても一つの学窓に育まれた者達故その写される顔、形、風物、建物に皆深い思い出があるうなぎき合つて時を忘れ正午近くまで過す。午後は新旧支部役員等十名が名勝

地東尋坊に御案内致し、モーターボートで三国海岸へ戻り、海を望んだ料亭で昼食会を催して前後来の方のかしき、楽しさを更に深めたが帰途の時間も追々と迫つて来たので、やがて一同福井に引上げ、熊倉邸で休息の上先生は列車に乗り込まれた。昨朝以来二日間少しも休まず私共と共に過ぎた先生は、さぞおつかれであつたこと、思つて居るが、やはり居られる間は少しでも傍に居たいのが教え子の人情であつた。大井先生御苦勞様でした。本県の同窓会も益々進展して行くことを希望して新役員一同今後努力致します。(幹事記)

出席者は新支部長五十嵐嘉秋、副支部長吉田英二、会計山口玄洋、地区役員岡登澄、岡田太一、三宅千代、元文忠男、旧支部長熊谷脩、三宅敏夫、岡本種義、古沢誠爾、遠矢東金、三橋弘、西武仁太郎、山田節夫、大野大三郎、宇野正一、元文信章、伊藤弘三郎、太田実、斎藤良三、中村義、小原勇、白崎源有、手鹿正、元文伊和男

クラス会便り

珊瑚会

入らずで、さらに歓送会を開催します。会員諸兄は万障繰り合わせて御参加がいます。時日 八月廿四日 午後八時 会場 若菜会館(文京区大塚町都電教育大学前、地下鉄茗荷谷駅下車) 会費 宅千円 (世話役一同) 卅周年記念クラス会予告 我等水道橋の母校を卒えて正に三十年。その間の悪夢の如き戦争に命を捧げた友もあります。或は病を得て逝かれた友もありますが、幸いにして全国津々浦々にその天職を以て社会に奉仕して居られる諸君、三十年目のクラス会は二度と再びありません。今年こそ一堂に会しお互いに之の健康を祝し合おうではありませんか。此処に在京会員有志は去る七月十七日日本橋而至サービステーションに会合出席者全員を準備委員とし協議の結果左記の如く決しました。白髪の友光輝ある友ロマンスグレーの友一堂に会し、我等の手でなした校旗を囲み我等の手で作った校歌を声高々と歌わうではありませんか。

記 期日 昭和三十三年十一月二日 場所 熱海温泉(一泊) 詳細は郵送します。 崎 千野記 更始会員に告ぐ 三十周年記念クラス会 来る十一月二日、於熱海温泉 諸兄の御参加を待つ!

学 会 見 聞 記

第一四二回東京歯科大学学会開催さる

第一四二回東京歯科大学学会は、福島学長を新学会長に迎え、去る六月二十二日(土)午後一時から、母校第一講義室で多数の熱心な出席者を集めて活発に行われた。

本学会は、従来の集談会形式に依るものから大きく飛躍、本格的な学会としての機構と形式とを備えてから二回目の例会であるが、前回に比すると会員数も倍近い約五百人を数え、申し込み演題も多数にのぼり、時間の関係から割愛せねばならないものもあつた程であつた。当日はこの盛況を反映して、途中停電騒ぎなどあつたにも拘らず、各部、研究室から提出された演題二十二題を中心に、終始満場溢る、なかに、活発な質疑、討論が行われた。

又、席上、議事として、学会々則第九条による福島学長の新会長就任の挨拶と講上前会長の辞任の挨拶が行われた。

目下、本学会は急カーブの上昇を辿りつゝあり、会員数も日々増加の傾向にある。現在のところ会員数は六百を越えようとしているが、近き将来、全同窓をその会員に擁する膨大な学会となり、母校の発展に平衡して充実し、大きくこれに寄与すると共に、日本に於けるのみならず、世界に於ける歯科医学の最先端を行

き、常にその指導的立場に立つものになることを関係者一同確信し期待している。

尚、未入会の方々は、一年分会費三百円を添え入会申し込みの手続きを即刻取られる様では希望している(松宮幹事記)

寺田・中井両博士を囲む会

過ぐる昭和二十九年二月二十五日母校裏通り『鶴八』で、元母校細菌学教授・中井武一郎博士(大五)の還暦を祝う主客十二名の有志の集いがあり、その節の申し合せにより任意次会開催となつてゐた。去る四月二十五日の新学長就任祝賀会の席に母校同窓会名誉会員でもあられる慈大前学長で、大正六年から終戦時まで二十数年母校で細菌学の実習・講義を兼任された、本年とつて六十四才の寺田正中教授を迎えて、急ぎ『寺田・中井両先生を囲む会』を催すことに決定し、今回は科薬抗生物質研究所顧問藤正政人君(昭四)

が世話役となり、去る五月二十八日渋谷駅前『小安』で催された。昭和の初期に母校細菌学研究室の助手をつとめた藤正君の後任で、現母校細菌学教授の米沢和一君(昭七)、また当時研究生でありアルバイトを完成された現母校保存学教授・杉山不二君(大九)と現セイルカ病院歯科部

長・長谷川慶蔵君(大一〇)、また寺田・中井両先生を顧問に戴いて来た関係で現ライオン歯研研究所・佐藤新一君(昭九)、および同所研究員で慈大で寺田教授の直接指導を受け、かつ、前学長の甥に当る奥村晴一君(昭二〇)と言つた、オール・細菌学チーテルマンの集いであつた。前回の生田(信)、風間(又)、重浦(卓)井上(久)、近藤(三)、志村(起)の諸君の代りに奥村君が出席し、他は同一メンバーと言う訳である。挨拶もそこ／＼にすぎやき肉をつゞき乍ら懇親の宴に入り、座談の巧みな中井先生には、近年再婚されてからは一段と磨きがかかり、二昔、三昔の思いで話に花が咲き、主客八名時の移るのも忘れての哄笑また爆笑。いずれも若き研究生時代に還つた気分です。楽しい敷刻を過ぎた。本会合には、スクラム会と命名したらばとの提案もあつたが、次回幹事としての藤正佐藤両君を承認、再会の日までお互い様充分からだを労わることを約して、午後九時までに愉快なこの集いを閉じた。(幹事記)

逝 去 会 員

磯部東三君(10)三七七 荒川区
田中敏文君(2)三七二 秋田県
福田徳蔵君(8)三七四 栃木県
堀 洋君(4)三七七 中野区
松井源水君 三七元 板橋区

大好評の新製品

ザロカインパスタ

塗布麻酔には…すぐ効く!
ザロカイン パスタ
を御使用下さい。

麻 酔…コカインの約 10 倍でその効果は極めて早く深く且つ持続性がある。

消 毒…麻酔と消毒を同時に行うことができ着色してあるので塗布部を明瞭に確認できる。

容 器…特殊容器により、操作が確實簡便に必要な最適量を塗布し得る。

〔包装〕…セット { 2.5g 入塗布容量 1ヶ
補充用 5g 入チューブ 添付 }
¥ 400
…補充用 5g 入チューブ
¥ 200

ネオ製薬工業株式会社

東京都渋谷区羽根町 30 番地
電話 東京 (40) 3768 番

完全治療の決定版

関根教授御指導

乾熱滅菌器

—30 秒で無菌操作ができる—

花沢式裏装充填器

杉山式膿漏スケーラー

関根式根管充填器

木村式歯齦切除刀

アルギン注入器

アマルガム充填器

その他在庫豊富

上島歯科精器製作所

台東区西黒門町 17 番地 TEL (83) 3394